大分県病院事業中期事業計画（第五期）取組評価について

令和７年２月２１日
大分県病院事業経営改善推進委員会　評価結果

１　全体評価（案）

令和５年度の業況は、収入が 20,176百万円 に対し費用は 20,815百万円 で、単年度損益は ▲639百万円 となっている。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、５類感染症に移行された後も、患者の受診控えの傾向が続いたことに加え、コロナ関係補助金の廃止や賃金上昇、物価高騰などが、赤字決算となった主な要因と考えられる。

また、電気・ガス等のエネルギー価格の上昇や物価高騰の影響による給食材料費や診療材料費等の増嵩、官民を通じた賃上げに伴う人件費や委託料の増加などが今後も続くことが予想され、病院運営は一層厳しさを増すものと見込まれる。

こうした中、より一層の収支改善策に取り組み、経営基盤の更なる強化に努めるとともに、引き続き地域医療の要として、高度な医療の実践に向けて取組を進めることに期待する。

２　個別評価（案）

	病院局自己評価				委員会評価				コメント
大項目	S	A	B	C	S	A	B	C	「S」：小項目の評価全てがⅡ以上かつⅠが1項目以上 「A」：小項目の評価全てがⅢ以上かつⅡが2項目以上 「B」：小項目の評価でⅣが1項目以内 「C」：小項目の評価でⅣが2項目以上
小項目	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	「Ⅰ」：特筆すべき進捗状況にある。 「Ⅱ」：良好な実施状況にある。 「Ⅲ」：概ね年度計画どおり実施している。 「Ⅳ」：計画までの実施ができなかった。
１　地域医療構想を踏まえた役割の明確化	S	A	(B)	C	S	A	(B)	C	
高度急性期、急性期医療機能の担い手として、地域の医療機関等との連携を図り、紹介・逆紹介を推進し、患者の早期の在宅復帰を目指し、入院時から退院支援に力を入れる。									
１）紹介率、逆紹介率の向上 プラン上の目標指標 ５年度　目標値　実績値 紹介率　94.0%　88.7% ↓ 逆紹介率　130.0%　131.5% ↑	Ⅰ	Ⅱ	(Ⅲ)	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	(Ⅲ)	Ⅳ	目標に対して逆紹介率は1.5ポイント上回っているものの、紹介率は5.3ポイント下回っていることから、さらなる努力が必要である。
２）地域医療機関等の連携 プラン上の目標指標 ５年度　目標値　実績値 診療情報提供料等を算定する割合　40.0%　38.0% ↓	Ⅰ	Ⅱ	(Ⅲ)	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	(Ⅲ)	Ⅳ	目標を2.0ポイント下回っていることから、さらなる努力が必要である。
３）在宅復帰の推進 プラン上の目標指標 ５年度　目標値　実績値 在宅復帰率　80.0%　90.6% ↑	(Ⅰ)	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	(Ⅰ)	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	目標を10.6ポイント上回っており、特筆すべき状況にある。
２　経営の効率化	S	A	(B)	C	S	A	(B)	C	
医療の質の向上等による収入の確保や薬品費や医療材料費等の経費の節減に積極的に取り組む。									
１）急性期医療の重点化 プラン上の目標指標 ５年度　目標値　実績値 一日あたり入院患者数　435.0人　396.9人 ↓ 一日あたり新外来患者数　86.4人　70.6人 ↓ 平均在院日数　11.5日　10.8日 ↑ 病床利用率　85.7%　78.0% ↓ 入院診療単価　77,439円　81,088円 ↑ 外来診療単価　29,718円　30,629円 ↑ 看護必要度　28.0%　32.5% ↑ 診療情報提供料等を算定する割合　40.0%　38.0% 再掲 在宅復帰率　80.0%　90.6% 再掲	Ⅰ	Ⅱ	(Ⅲ)	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	(Ⅲ)	Ⅳ	「単価」や「看護必要度」は目標を上回っているものの、「一日当たりの入院患者数」や「一日あたり新外来患者数」、「病床利用率」が目標を下回っていることから、さらなる努力が必要である。
２）ＤＰＣ分析による経営戦略の強化 プラン上の目標指標 ５年度　目標値　実績値 平均在院日数　11.5日　10.8日 再掲	Ⅰ	(Ⅱ)	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	(Ⅱ)	Ⅲ	Ⅳ	目標より0.7日短縮されており、良好な実施状況にある。
３）診療報酬制度への戦略的な取組 プラン上の目標指標 ５年度　目標値　実績値 医業収支比率　98.0%　93.9% ↓ 経常収支比率　100.1%　97.1% ↓ 現金保有残高　6,039百万円　6,544百万円 ↑ ※有価証券（譲渡性預金）含む。	Ⅰ	Ⅱ	(Ⅲ)	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	(Ⅲ)	Ⅳ	現金保有残高は目標を上回っており良好である一方、「医業収支比率」と「経常収支比率」は目標を下回っており、さらなる努力が必要である。
４）費用削減への取組 プラン上の目標指標 ５年度　目標値　実績値 材料費対医業収益比率　33.4%　35.2% ↓	Ⅰ	Ⅱ	(Ⅲ)	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	(Ⅲ)	Ⅳ	物価高の影響を受け目標を1.8ポイント下回っていることから、さらなる努力が必要である。